

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第4回教育文化部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第4回教育文化部会）
2 日時	令和2年1月20日 午後1時30分から午後4時46分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第1会議室
4 出席者	中澤武部会長、聲山永子副部会長、荒川玲子委員、坂口純一委員、城下敦子委員、高見澤津久美委員、滝沢博俊委員、竹田貴一委員、中澤照夫委員、原有紀委員、古田睦美委員
5 市側出席者	中澤教育次長、石井教育総務課長、鎌原政策企画課長、小林交流文化スポーツ課長、久保田交流文化芸術センター副館長、清水市立美術館長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、小泉中央公民館長、清水上田図書館長、池田スポーツ推進課長、木嶋健康推進課健幸政策担当係長、宮澤観光課観光政策担当係長、宮島生涯学習・文化財課人権同和教育係長、西澤教育総務課企画担当係長、宮原政策企画課政策調整担当係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年1月27日

協 議 事 項 等

1 開 会（石井教育総務課長）

2 部会長あいさつ（中澤部会長）

3 議事

(1) 分野別意見聴取について

- ・意見聴取団体：上田社会教育大学
- ・出席者：尾崎行也学長
- ・事務局から団体の紹介
- ・「意見・提言シート」等配付資料に沿い、尾崎学長から団体の活動内容、活動上の課題、市の施策に対する意見・提言等について発表
- ・以降、意見交換

(委 員) 社会教育を支えている団体については、上田社会教育大学のほかにもいくつかあるということだが、定期的に関係者の方々が一堂に会して意見交換や上田市の生涯学習のあり方などを話し合うような場面というのはあるのか。

(団 体) 私の体験した限りでは、そのような場に招かれたのは今回が初めかと思う。

(委 員) 各公民館や公民館分館の講座を開講する際に、上田社会教育大学の持っているノウハウなどの情報提供や助言等をすることはあるか。

(団 体) そのようなことはない。ただ、受講生の中で、公民館の講座の講師を務められている方はいる。

(委 員) P T A母親文庫が発祥ということだが、現在の人数と男女比、参加費の有無について教えてほしい。

(団 体) 人数は70人。男女比は、「P T A母親文庫」が母体なので、当初から女性のみで現在まで踏襲しているため100%女性である。会費は月額1,500円である。

(委 員) 現在では、男女同権、機会均等という声が大きくなっている社会情勢だが、40年間、女性だけに門戸を開かれているということに対する意見はなかったのか。

- (団 体) 学歴という面から見て、今から40年前の段階では女性の大学卒業率は非常に低かった。男性が入ると、やはり男性中心になってしまうという意味で、女性だけであれば学歴の差に対するコンプレックスは少ないだろうということが根底にあり、女性のみで続けてきた。発足から20年ぐらい過ぎた頃から、男性も入れてもよいのではないかという意見もあったが、日本の社会はまだ男性中心の社会であるということが大勢の意見であった。運営に関することは理事会において決定しているため、私の個人的な意見ではあるが、これからは男性にも門戸を開いてよいのではないかと思っている。
- (委 員) 子どもが小学生の時に母親文庫をやっていたが解散してしまい、そのあと読書サークルを立ち上げて活動している。当初は20人程度いたが、20年余経過する中で新規加入者はおらず、メンバーは減る一方で新規加入者がいない。上田社会教育大学の中には当初からのメンバーもいるのではないかと思うが、続けている方がいる中で、新しく入ってやっていくことはできるのか。
- (団 体) 2年間の基礎学習期間を設け、研修旅行や公開講座の実施など、なるべく交流の場をつくり顔見知りになって入っていただくこととしている。2年間の基礎学習の中心は、地域のことを学ぶための地域の史料である江戸時代の古文書を読むことになる。少しでも読めるようになり抵抗がなくなれば成功である。また、上田社会教育大学がここまで続けているのは、2年ごとに新しい受講生を募集しているからである。
- (委 員) 上田社会教育大学の運営について、市から基礎講座の2年間の分を対象とした補助金等の交付はあるのか。
- (団 体) ない。
- (委 員) 受講生からの会費だけで賄われているということになるのか。
- (団 体) そうである。
- (委 員) 昨年で40周年ということであるが、大学の学生(受講生)の人数の推移はどうか。
- (団 体) 最初はPTA母親文庫の延長だったので、希望者も非常に多く、90人から100人いたが、その中から実際に進学された方は3分の1から半分程度である。2期、3期になると急速に希望者は減っており、現在は1期あたりの受講希望者は1人である。40年前から続けている1期生は、現在6人いる。
- (委 員) 受講生が多い方がよいと思うが、そのあたりの考えはどうか。
- (団 体) 入門期はあえて多い方がよいと思うが、研究科になるとテーマを持つため、その分講師の対応が大変であり、論文の執筆や発表も考えると、実際には多ければよいというものではない。
- (委 員) 生涯学習では、長野県のシニア大学や上田市のことぶき大学のほか、上田自由塾や公民館の講座などがある。活動内容は千差万別だが、上田社会教育大学の話を聞いて、かなり学術的な活動をされており、文学・歴史には深い研究をされている印象を受けたが、もう少し違う分野への広がりということについてはいかがか。
- (団 体) 日本の伝統的な文化芸術、茶道、華道、書道などの学習方法は、「師匠」という人物がいて、講師としても生涯務められるわけである。そこで学んだ方の中から、免状をもらってまた講師になっていくわけである。一方で、自分で楽しむ活動をするグループは、発表の場として、例えば文化祭などがあるが、そのような場をさらに深めていくことも必要なのではないかと思う。楽しむ活動をするグループは、長く続けることが大事かと思うが、その手ほどきを公民館等で行った場合に、その「先」の場所を紹介することが必要ではないか、様々な会の活動内容などを説明することによって、ことぶき大学や春秋大学などの「その先」というものが出てくるのではないかと考えている。
- (委 員) 自主運営ということで、理事会があり、運営費用も自分たちで出し合い、講師も自分たちで探して、発表の場も自分たちという、作って、学びあって、深めていくということについて非常に稀有な、他にあまり例のないことなのではないかという印象を持っているが、この上田地域で、特に女性の市民の自主運営、自主管理、自己研鑽で40年も続けてきたことの歴史的意義について教えてほしい。

(団 体) 団体として社会教育活動を認めていただいているため、P T A母親文庫の時代から図書館を無料で使用させていただき活動してきた。図書館は、郷土の史料がたくさんあり、自由に活用できるのは非常にありがたい。他の地域でこのような活動をしている団体はあまり聞いたことがない。歴史団体は各市町村に必ずあるが、多くは学校の先生などが団体を設立し、市民を会員にしており、市民はどちらかというと「聞き手」という立場であるが、上田社会教育大学では、自立をするという意味で、学び方を学んで自分でテーマを持つということを掲げていることに意義があるのだと思っている。

(部会長) 本日の提言を参考にさせていただき、今後のまちづくり計画に生かしていけるようにしたい。

(2) 会議概要の確認について

- ・第3回部会会議概要について内容の確認
- ・修正なしで了承

(3) 「後期まちづくり計画」素案について

- ・部会資料「後期まちづくり計画策定シート」により、部会主担当課長からシートの構成(1表・2表)や進め方、当日追加配付した資料等について説明(前回と今回の2回に分けて審議を依頼)
- ・今回の検討範囲：策定シート 5-2-1・6-1-1(いずれも修正部分)
5-1-1、6-1-2、6-2-2

- ・以降、協議

(事務局) 部会資料「後期まちづくり計画策定シート」5-2-1・6-1-1(いずれも修正した策定シート)に基づき説明

(部会長) 御意見、御要望、御提言等はあるか。

(委 員) 先ほどの分野別意見聴取で、上田社会教育大学の現状と課題についてお話しいただいたが、現在、教育委員会として、①上田社会教育大学に対する検証について、②学習団体のネットワークづくりについて、③特に長野大学との連携などについての考えはどうか。

(事務局) ①の上田社会教育大学については、これまでに多くの成果を出されており、旧上田市で発行した「上田市誌」でも紹介されるほど認知されている団体である。上田市にはほかにも多くの学習団体があり、それぞれの団体が、それぞれの形で活動しているが、その中の最たる団体が上田社会教育大学ではないかと評価させていただいている。

②の学習団体のネットワークづくりについては、学習団体のそれぞれの成り立ち、特徴も様々であるが、何よりもこの地域に学びの場がたくさんあることが本当に素晴らしいことであると認識している。それぞれの団体を様々な形で紹介していくことは大事なことはないかと考えている。特に、2021年に上田自由大学が発足して100年になる。地域の学びが100年前から上田にあったということを顕彰しながら、また新たにネットワークを築いていきたいと考えている。

③長野大学との連携については、生涯学習分野の研究で活躍されている先生方もいる。もう一つは、長野大学においては、実践の場として学生を地域に送り出している先生もいる。先生が直接教えるという形だけではなく、地域の人からも学んでくるということが大変素晴らしい。出口の部分で長野大学の果たしている役割に期待している。

(事務局) 部会資料「後期まちづくり計画策定シート」5-1-1(当日配布した資料)に基づき説明

(部会長) 御意見、御要望、御提言等はあるか。

(委 員) シートの中で、いくつか「充実する」「充実させる」「充実していく」など、「誰が」「何を」という部分にかかる表現について疑問に感じた。特に、1表の「1. 節の説明文」の

初めの方に「子どもたちの学びの環境を充実し、」とあるが、これは「充実させ」の方がよいのではないかと思うがいかがか。

(事務局) 「充実」という言葉はシートの随所に出てくると思うが、主となるものが何かによって使い方が変わってくるので、関係部分について再度見直しをしたい。

(部会長) 脈絡に応じての使い方かと思うが、検討いただければと思う。

(委員) 少子化に伴って、学校の統廃合などで、例えば通学区域が変わることによってスクールバスを運行することがあるが、現在、上田市におけるスクールバスの運行状況はどうか。

(事務局) 現在、上田地域の川西小学校、丸子地域の丸子中学校、丸子中央小学校の3校でスクールバスを運行している。理由については、合併前の旧市町において学校の統廃合が行われ、通学距離が長くなったことによるもので、統合の要件であったことから、現在まで続いている。

(委員) 2表の基本施策1の中項目③の細項目で「検査の結果分析とともに、児童生徒が生き生きと目を輝かせ、『分かる・できる・もっと学びたい』と感じる迫力ある授業を展開していく。」と記載されているが、「展開していく」のは現場の先生方であって、市の施策として記載するのであれば、もっと違う書き方があるのではないか。

(事務局) 教育委員会として、学校の授業が型にはまってマニュアル化しないよう、子どもたちが生き生きと楽しく、自ら学び自ら発言できるような授業をやっていこうという考えから「迫力ある授業」という言葉で表現しているため、こちらから学校に対して展開していくという言葉になっている。計画としてこの表現はどうかということについては検討させていただきたい。

(部会長) 「迫力ある授業」という言葉の方ではなく、そのあとの「展開していく」という表現の部分なのではないか。

(委員) 「教育支援プラン」の中に入れるのであれば構わないと思うが、総合計画にこの表現とうのは疑問に思った。

(部会長) この部分についても検討いただければと思う。

(委員) 学校給食センターからのセンター給食以外の学校がいくつかあると思うが、最終的にはすべてセンター化したいのか。

(事務局) 学校給食を提供する施設については、旧上田市では、第一学校給食センターが中学校の給食を、第二学校給食センターが小学校16校あるうちの14校に給食を提供している。川辺小学校と東塩田小学校については自校給食で、学校に給食室がありそこで給食を提供している。改訂した「今後の学校給食運営方針」では、これから第二学校給食センターを改築し、それに合わせて川辺小学校の給食は第二学校給食センターで提供することとし、東塩田小学校については、丸子地域は丸子学校給食センターで小学校・中学校すべて提供しており、地理的にも近いことや施設の能力的にも余裕があることから、丸子学校給食センターで提供するという形に変えていきたいと考えている。また、真田地域、武石地域については、それぞれ自校給食であるが、両地域の給食施設はそれほど古くなく、まだまだ使用が可能であることから、引き続き自校給食で提供するという方針である。

(委員) 2表の基本施策4の中項目③の学校給食の項目で、新計画の記載内容に「改訂した『今後の学校給食運営方針』に基づき」と記載されている以上、委員として、この場で基本方針を見せていただき、内容を把握し理解するという作業があつて進んでいくものではないかと思うが、その点に関してはいかがか。

(事務局) 確かに、だいぶ飛び過ぎてしまっているところもある。最終的に記載内容については、細かいところまでは記載せず、「方針に沿って進めていく」というようになるが、このことについては後ほど資料をお配りして説明したい。

(委員) 2表の基本施策4の中項目②の「学校の適正規模・適正配置の検討」の新計画の記載内容で「小中学校のあり方に関する基本方針を踏まえ」と書いてあるが、これはもう策定済みなのか。

(事務局) 昨年度、検討委員会を立ち上げ、現在検討している段階である。基本方針ができるのは来年度に入ってからになるので、基本方針そのものについてはまだ検討中の内容であり、策定後にそれを踏まえて学校の適正規模・適正配置についても検討を進めていくという内容である。

(委員) そこをきちんと丁寧に書き込む必要はないのか。これだけ見てしまうと、もう策定済みのように捉えてしまうので、記載方法を工夫してはどうか。

(事務局) これから5年間の計画になるので、表現は検討させていただき、もう少しよく分かるようにしたい。

(委員) 分かりやすく丁寧に書こうとすると、どの項目もかなりのボリュームになってしまうが、表現上の到達レベルが分からない書き方というのはいかがなものだろうか。何年たっても遅々として進まない施策もあるだろうが、これから5年間のスタートを切る上で、「このレベルを着地点として進めていきたい」というものを作った方がいいのではないかと思う。

(事務局) どこまで書き込むかということだが、あくまで「総合計画」という大きなくくりの中で、「このような方針で進めていきます」という表現になるのではないかと解釈している。具体的な施策まで書いてしまうと、やや書き込み過ぎではないかと思うので、やや抽象的な表現にはなっているが、このことに基づいて具体的に進めていくという内容で、このような記載にさせていただいた。

(委員) 文言を見れば、個別計画が策定済みのものや現在検討中のものなどあるが、我々委員はそこに踏み込めない部分がある。しかし、個別計画を承知して初めて今後5年間のマスタープラン（基本計画）の協議ができるのではないかと思っている。そのあたりを理解しなければ、大枠だけの空論の議論になってしまうと思う。どのように書き込むかは、全体のスタイルがあるので事務局で適正にやってもらえばよいが、個別計画については、何か提示してもらえものがあればありがたいと感じた。

(部会長) ここまで指摘のあった点については大事な点かと思うので、事務局で検討いただけるとありがたい。

(委員) 給食の関係について提言したい。学校給食のあり方については、古くて新しい課題で、学校関係者などからいろいろな意見がある中で、センター化反対、自校給食存続などいろいろな議論があったことも伺っている。学校給食の提供の仕方についてはいろいろな意見があるのは分かるのだが、学校給食センターを建設するにあたっては、単に学校給食センターの施設・設備を更新するというような文言ではなく、食の教育の中核機関になるような、単に給食を作る施設から、食の教育を子どもたちに提供する、食の教育の総合的な施設にしたいというような方向性を出してほしい。

(委員) 2表の基本施策2の中項目②の「いじめ・不登校などの問題に悩む児童・生徒への支援」の1の「新計画の記載内容」では、現行計画から「市いじめ問題対策連絡協議会の連携を強化し」という文言が抜けているが、「いじめ問題対策連絡協議会」という組織はなくなったのか。削除した理由は何か教えてほしい。

(事務局) 「上田市いじめ問題対策連絡協議会」は、様々な団体の方で組織され、年1回の会議で情報共有を図っており、現在も存続している。本文では、この協議会の連携を強化することが主になっているとも捉えられ、実際にいじめ・不登校という問題やその対応は学校等で起きていることから、文言の整理をした際にこの部分は不要であると判断して削除し、より関わりのある部分を残した。

(委員) この協議会はどのような役割を持っているのか。

(事務局) 協議会のメンバーには、民生児童委員や警察、法務局、人権擁護委員ほか、いろいろな団体の方で構成されており、何かあったときには、他の民間の団体等も含めて情報共有できるという良い面もあるが、現実的には、関係団体すべてがいじめ・不登校の対策に関わっているという状況ではない。

(委員) いじめ等支援対策チームが中心となって対応しているということか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 1表の「5 各主体に期待される主な役割分担」で、「現状・進捗及び達成状況」の欄で、「信州型コミュニティスクールが全学校に整備されました」とあるが、この信州型コミュニティスクールは、長野県教育委員会で整備したと解釈すればよいのか。「信州型」とはどのようなものか教えてほしい。

(事務局) コミュニティスクールには、国が推奨する形の「コミュニティ・スクール」と、それをもう少し緩和した形の長野県版の「信州型コミュニティスクール」がある。上田市内には2通りあり、浦里小学校と川西小学校は国のコミュニティ・スクール、その他の学校はすべて信州型コミュニティスクールである。

(委員) 2表の基本施策3の中項目①の2に「地域の教育力を活用して、学校の実績に合わせたコミュニティ・スクールの指定」とあるが、1表の「信州型コミュニティスクールが整備」となっており、「整備」と「指定」という文言を含めて、ここに記載されているコミュニティ・スクールとは同じものなのか、違うのか。

(事務局) 2表の方に記載されている「指定」については、コミュニティスクールの指定ということで、現在上田市では信州型がほとんどであるが、一方で国では、国のコミュニティ・スクールの形に替えていったらどうかという提言もされている中で、現在の信州型が国の形になる場合もあるため、これらの要素も含め、ここでは「指定」という言葉を使っている。

(委員) コミュニティスクールで、国と信州型とのいちばんの違いは何か。

(事務局) 「信州型」は、長野県教育委員会が進めているもので、学校支援や学校運営、学校ボランティアなどを含めて非常に緩いコミュニティスクールの形態である。一方、国では、コミュニティスクールを手段として、地域の方々に学校運営にも携わっていただくということで、学校の中に運営組織をつくり、学校の運営方針に対して意見を述べるなど、いくつかの権限を持たせることにより、地域の皆さんとともに学校運営を行っていくことを進めている。根底には、地域の教育力が低下しているという認識のもと、このようなシステムによって、学校を中心に地域の人材育成を進めていきたいというのが国の考え方である。

(事務局) 学校給食について、「今後の学校給食運営方針」とはどのような方針なのかという質問について、追加資料(2枚)「今後の学校給食運営方針(平成27年12月16日)」、「今後の学校給食運営方針について」を配布し、資料に基づき説明

(部会長) 説明について、御質問、御意見等はあるか。

(委員) 新しい第二給食センターはいつから稼働する予定か。

(事務局) 教育委員会としては、いまのところ、令和5年度中の稼働を目指している。

(委員) では、この後期まちづくり計画の計画期間内には稼働するというのでよいか。

(事務局) 計画期間内に稼働させたい。

(委員) 稼働時期についての文言は新計画には入れられるのか。

(事務局) 他の施策とのバランスもあり、ここだけ具体的な内容になりすぎてもいけないので、記載については検討させてほしい。

(委員) 追加資料の「今後の学校給食運営方針について」の終わりに、「市長と教育委員会との懇談会」において「さらなる食育の推進に努めることが市長からも求められました」とあるので、後期の「新計画の記載内容」に食育についての記載がないのはいかがなものか。

(事務局) 「新計画の記載内容」の最後の部分に「将来にわたる安全安心でおいしい給食の安定的な提供と食育を推進します。」と記載した。

(委員) 第二学校給食センターは、おそらく国の補助金等を使って建設することと思うが、「給

食センター」という名称を必ず使わなければいけないのか。

(事務局) 「このような目的で使う施設」ということに対して補助金が交付されるので、名称については、市町村等の考え方でよいと思う。

(委員) 「今後の学校給食運営方針」で掲げられている「食育の推進」、「食物アレルギーへの対応」ということをもう少し前面に出して、食の環境に配慮した新たな視点として盛り込んでほしいため、単なる「学校給食センター」ではない施設の名称を考えてもらいたい。

(事務局) 食育については、市長からもしっかりやっていくように言われている。名称についても、「食育」という文言を使っている施設もあるので参考にさせていただきたい。食育の部分は、もう少し書き込む必要があるかと思うので検討させていただきたい。

(事務局) ただ今は貴重な提言をいただいた。学校給食センターも「第一」「第二」という名称だと、単なる従来の給食を作るだけの施設というイメージが大きいので、今回改築する施設は、食育や食物アレルギーといった問題に対して積極的に取り組む施設だということを意識した表現にできればと考えているので御理解いただきたい。

(委員) 食育について、例えば国では、「30品目食べよう」などということになるかもしれないが、まずは子どもたちが自分の健康を考えて、食べていく能力をつけるということだと思う。食物アレルギーもその一つとして、いいものを提供するということは必要だが、全部除去するということはできないので、それを選択する力をつけてあげることが必要だと思う。また、長野県は農業とも近い関係にあることから、食育だけでなく「食農教育」として考えた方がいいのではないかと思っている。食育の中身については、地域の気候風土に合った産物や食文化、食の歴史などを知ってもらうことも必要かと思う。

(事務局) 部会資料「後期まちづくり計画策定シート」6-1-2に基づき説明

(部会長) 御意見、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 2表の基本施策3の中項目①の4の「現行計画の記載内容」から「新計画の記載内容」では、「交流芝生広場」が削除されているのはなぜか。

(事務局) いちばんの主眼は「まちなかの賑わいの創出」であるため、むしろ商店街等との連携を図ることを強調した。条例では、芝生広場自体の使用料については規定しておらず、芝生広場を単独で貸すということはしていない。交流文化芸術センターや市立美術館の施設を使用されるときに、あわせて芝生広場を使っただくことはあるが、音の問題や灯りの問題等いろいろ規制があるので、ここでは削除させていただいた。

(委員) あの芝生広場はとても魅力的なのだが、いつも誰も使っていないので大変もったいないと常に感じているので、今後、サントミュージゼと連携して、外から見ても分かるような企画ができていければと考えている。

(事務局) 芝生広場は、休日においては、たくさんの親子が遊んでおり、また、施設のガラス面を鏡にして、ダンスパフォーマンスの練習をする高校生などで賑わっている。また夏場は親水公園として使っただいている。

(委員) そこにもう一つアクセントがあれば更によいと思うので、いい企画を楽しみにしている。

(委員) 催し物の内容によっては、かなり遠隔地から来られている方もいると思うが、遠い方ではどの辺りから来館されているのか。

(事務局) 大ホールで開催する演劇については、全国でも4会場ほどしか公演しないものあり、県外から来られる方が大変多い。オーケストラ等についても、単に上田地域というエリアだけでなく、県内各地域から来ていただいている。サントミュージゼでは、事業の都度アンケートを取っており、アンケートからも県内は広域、東京をはじめ首都圏からも来られていることが分かっている。

(事務局) 部会資料「後期まちづくり計画策定シート」6-2-2に基づき説明

(部会長) 御意見、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 説明の中で「忍者」の話が出たが、NHK大河ドラマ「真田丸」に関しては、真田氏や

上田城跡など全国的に話題になり、多くの歴史ファンをしばしば目にしたが、その後の、忍者協議会の動向や、継続的な観光ツーリズム関係の集客力等については、数値的に分かっているのか。

(事務局) 忍者協議会に加盟したのが最近のことであり、「忍者」や「侍」などはインバウンドとして人気が高い。上田市におけるインバウンドについては年々増加傾向にあり、平成30年度が最新のデータとなるが、1万5千人ほどの集客であるが、その半分以上はビジネスの方が多いということで、まだまだ観光の部分では今後更に進めていかなければいけない状況である。そのような中で、忍者についても、地域の大切な魅力、コンテンツとして、もっと生かしていきたいと考えている。

(部会長) 最後に、前回審議した策定シートも含めて、全体を通して、あらためて御意見、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 5-1-1の2表の基本施策2の中項目②の2で、心の教室相談員の配置などについての記載があり、現行計画の記載内容では「ふれあい教室などの連携」とあって、新計画の記載内容には「ふれあい教室を設置」となっている。「連携」と「設置」とでは意味合いが曖昧かと思う。また、現行計画の記載内容にある「教育相談所と家庭、学校、ふれあい教室などの連携」という文言が新計画の記載内容では抜けているが、新計画の記載内容の文章に替えた意図が分からないので、この文章全体について説明をお願いしたい。

(事務局) 現行計画では、「心の教室相談員の配置、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣、これが学校に派遣されているとかそういうことであるが、「教育相談所と家庭、学校、ふれあい教室などの連携により、きめ細やかに対応します。」という2つの文章が入っていて分かりづらいと考えたが、新計画の「教育相談所やふれあい教室を設置するとともに」という文章が、新しく整備するようにも捉えられるので、この部分については検討させていただきたい。また、「家庭、学校、ふれあい教室などの連携」の部分がないということについては、意図的にこの部分を抜いたわけではない。いろいろな要素が詰め込まれてしまって、逆に何を言いたいのか分からないという視点により、連携自体は確実に行われていることから、あえて入れずに、文脈として分かりやすいように整理した。

(部会長) 例えば、新計画の記載内容の「きめ細やかな寄り添った支援」というものは、対象は学校だけではなく、家庭に対しても、また家庭と学校との連携に対してもそうであると思う。委員の指摘・意見を盛り込むとすれば、最後の「きめ細やかな寄り添った支援」という部分に入れることはできないだろうか。

(事務局) 重要な点だと思うので、「スクールソーシャルワーカーを派遣し」の後に、「家庭等との連携」といった文言を入れながら文章を整えてみたい。

(部会長) 支援の対象を明確化した方がよいのではないかと思う。

(委員) 全体的に感じたことだが、策定シート2表の「方向性」の欄で、「A 拡大・充実」という方向性になっているのに対して、新計画の記載内容では「変更なし」という記載には、少しがっかりした。あまり詳細には書き込めないということもあると思うが、姿勢としてはいかがなものだろうかと感じた。

(事務局) 方向性については、計画の中で「このようにやっていく」という具体的なことを入るものではなく、現行計画に対しての、現状を踏まえた今後の方向性としての考えである。全体的に、5年間の中での様々な変化にも対応できるような、「～を進めていきます」というような、少しぼやかした形の表現にさせていただいているが御理解いただきたい。

(委員) 「拡大・充実」ということに対しては、予算を拡大して要求するということで理解してよいのか。

(事務局) 項目によっては、予算が関係するものとししないものがあり一概には言えないが、必要に応じて、充実・拡大させるための予算も要求していきたいと考えている。

(委員) 6-1-1「文化遺産の継承と活用」の1表の「4 達成度をはかる指標・目標値」の「施策の必要性・課題・新たな視点等」に「先人館」という記載があるが、何か解説のよ

うなものが必要なのではないかと感じたがいかがか。

(事務局) 「先人館」は、市民団体から設置について要望をいただいている名称で、一般的に定義のある名称ではないので、ここでは、市民団体から設置要望が出ているという事実を伝えるにとどめており、詳細には踏み込んでいないため、解説については今のところ考えていない。

(委員) これまでにスポットライトを浴びてきた有名、著名な人物だけではなく、上田にこれまでの歴史を築かれた、焦点が当てられてこなかった人物まで掘り起こして、上田のまさに先人の功績をたたえる施設ということによいか。

(事務局) 平成28年度に合併10周年記念事業として、教育委員会で「ふるさと上田人物伝」という上田地域で活躍し、地域振興や専門の分野で優れた業績を残した人物50人(49組)をピックアップした冊子や上田市誌、あるいはほかの書物等で触れられている偉人を顕彰していく場を設けてほしいという要望をいただいている。そのような方向性も踏まえながら検討していきたいと考えている。どのような形で紹介するかはこれからだが、案としてはシートにも記載のとおり、パネルを作成し展示するというを考えている。

(委員) シートに記載されている部分から、「先人館」という文言は、後期まちづくり計画には反映されないということによいか。

(事務局) 記載はされない。

(事務局) 先ほどから「どこまで書き込むのか」という議論であるが、具体的な内容については個別計画などにおいて対応することとなり、総合計画においては「大きな方向性」ということについての記載になろうかと思う。いただいた意見については、参考にさせていただきたい。また、現時点で策定中、あるいは今後策定予定の計画や方針等についての書き方についても、策定のタイミングと総合計画に記載する文言との整合性を図る必要があることから、その点も十分含めた上で、いただいた御意見を踏まえながら検討したいと考えているので御理解いただきたい。

(4) その他

- ・事務局から特になし
- ・委員から特になし

4 事務連絡

- ・次回全体会の日程について
日時：令和2年2月18日(火)午後1時30分から
場所：本庁舎6階 大会議室
内容：「中間答申」素案